

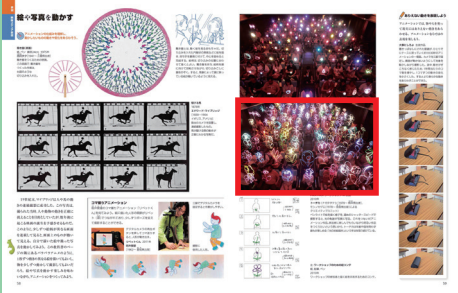
拡張する教科書

ARを活用した学習指導案例

表現／映像メディア表現

平成 29 年度版高等学校『美術 1』内容解説資料

トーチカ「PiKA PiKA ワークショップ in 広島」



AR 該当箇所：教科書 P.59 赤枠部分

時間数	3時間
準備するもの	
●生徒● 教科書	
●教師● 教科書, タブレットもしくはスマートフォン (COCOARアプリがダウンロードされた端末), コンピュータケーブル, プロジェクター, ペンライト, カラーセロハン, デジタルカメラ, コンピュータ, プリンター, 感想用ワークシート	

指導のポイント

■ARで生徒の心をつかむ

本題材では、始めにARを活用してトーチカの「PiKA PiKA ワークショップ in 広島」を鑑賞させる。教科書から映像を読み込む様子は生徒にとってめずらしく、彼らは「何が始まるのだろう？」と引きつけられる。トーチカの映像では、一コマ一コマの絵画的な表現から、光による表現の偶然性



教師のタブレットをコンピュータケーブルでプロジェクターにつなぎ、ARの映像を投影させて、クラス全体で鑑賞する。

光のジャクソン・ポロック



題材の目標

光ならではの表現の味わいやよさに関心を持ち、特徴を生かしてあらわそう。

ねらい

ARの映像「PiKA PiKA ワークショップ in 広島」を鑑賞し、光による絵画表現のよさやおもしろさを感じ取らせる。シャッタースピードを調節することで変化する写真の表現についても学習させながら、光ならではの表現を味わわせたい。

観点別評価の規準

① 美術への関心・意欲・態度	光による表現のよさやおもしろさを感じ取ろうとしている。
② 発想・構想の能力	光による表現の特徴を理解して、あらわしたいイメージを考えている。
③ 創造的な技能	機材の使用方を理解し、あらわしたいイメージに合わせて撮影している。
④ 鑑賞の能力	それぞれの作品の表現方法やねらいを理解し、話し合っている。

や計画性について解説し、これから行う光の絵画表現に対する制作意欲を喚起させる。

ARの映像の後に、抽象表現の代表的画家であるジャクソン・ポロックの作品を鑑賞させる。彼のアトリエ一面を使った制作方法なども紹介し、これを授業で絵の具を使って行うことは難しいことを伝え、ペンライトを使って、全員で1枚の大きな抽象絵画に取り組むことを理解させる。

■グループでの撮影

制作は5～6人のグループで行い、グループごとに1台のデジタルカメラを準備する。デジタルカメラはあらかじめシャッタースピードを遅く設定しておき、撮影の前に、シャッタースピードと写り方の関係についても解説する。

グループでは、1人1本のペンライトを持ち、全員が撮影に参加する。それぞれのグループごとに工夫ができるよう、教師は巡視し、適宜助言する。

■一次鑑賞会

1時間が終わった段階で、一度撮りためた写真を出力して鑑賞する。最終的に全てのグループの写真を集め、ポロックのような抽象絵画を完成させることを再度確認させ、新たに撮りたい写真のイメージを考えさせる。



デジタルカメラであれば、撮影した写真をすぐに見ることができる。イメージと写真が合っているかを確認する。

授業の展開

生徒の活動	教師の指導と評価の留意点	評価の規準	時間数
導入 ◎ARの映像作品, トーチカ「PiKA PiKA ワークショップ in 広島」を鑑賞し、ペンライトを使った美術表現について学習する。 ◎ジャクソン・ポロックの絵画作品を鑑賞し、抽象表現のよさやおもしろさを認識する。	◎トーチカ「PiKA PiKA ワークショップ in 広島」の鑑賞を通し、光による絵画表現のおもしろさを感じさせる。 ◎ジャクソン・ポロックの作品のよさを感じ取らせ、同様の抽象表現を光で行うことへの意欲を高めさせる。	① ④	0.5時間
制作 1 ◎5～6人で1グループとなり、グループごとに1台のデジタルカメラで撮影する。ペンライトは各自1本ずつ持って撮影に参加する。 ◎グループで相談しながら、さまざまな光の表現を楽しみ、撮影する。	◎デジタルカメラはシャッタースピードを設定した状態で、生徒に配布する。 ◎ペンライトの光源は人の目に向けられないよう、安全指導を行う。	① ② ③	0.5時間
作品鑑賞と制作 2 ◎これまでに撮影した写真をプリンターで出力し、ジャクソン・ポロックのような抽象表現ができているかを確認する。 ◎グループで撮影した写真を見直し、最後に撮影する写真のイメージを話し合う。 ◎話し合ったイメージを基に、撮影する。	◎これまで撮影した写真を鑑賞させ、どう撮影すればどのような効果があらわれたかを振り返らせる。 ◎撮影したいイメージを基に、どのような撮り方がよいか考えさせ、撮影に臨ませる。教師は巡視し、適宜助言を行う。	① ② ③	1時間
共同制作「光のジャクソン・ポロック」 ◎グループで撮影した写真から幾つかを選び、プリンターで出力する。 ◎出力した写真を組み合わせながら、クラス全員での共同制作「光のジャクソン・ポロック」を完成させる。 ◎完成した作品を鑑賞し、感想をまとめてワークシートに記入する。	◎クラス全員で「光のジャクソン・ポロック」を完成させるよう意識を高め、出力した写真の構成を考えさせる。 ◎トーチカ「PiKA PiKA ワークショップ in 広島」およびジャクソン・ポロックの絵画作品を再び鑑賞させ、生徒たちが新しいアクションペインティングの表現を生み出したことを称え、達成感をもたせる。	① ② ④	1時間

グループによって、カメラ本体を動かしたり、光の色を利用したりなど、工夫はさまざまに見られる。一次鑑賞会を行うことで、友達はどういう方法で撮影したのかを学び合い、イメージ通りの写真を表現するための撮り方を模索させる。

■「光のジャクソン・ポロック」

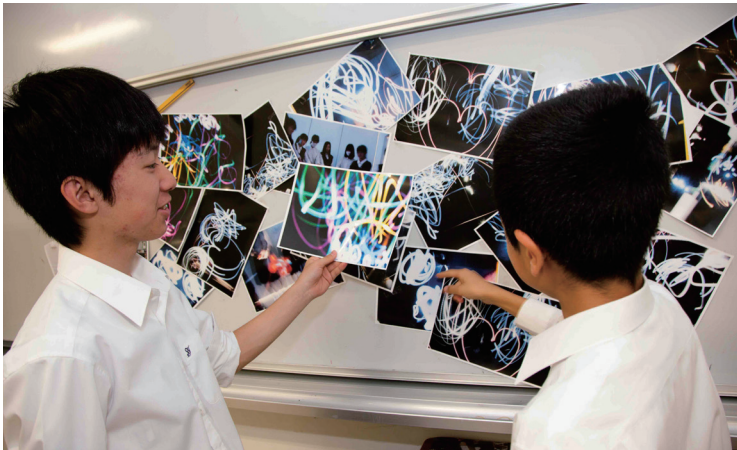
撮影を終えたら、各グループで数枚を選ばせ、それらを組み合わせて1枚の抽象絵画を共同制作で表現させる。



生徒が色についても考えながら制作できるよう、ペンライトに付けられるカラーセロハンも準備する。

最終的に完成するのは1枚の作品であるが、それぞれのグループの写真の工夫や制作の苦労などを発表し合う機会を設け、お互いの作品のよい点を感じ取らせたい。話し合いながら写真の組み合わせを決定し、共同制作「光のジャクソン・ポロック」を完成させる。

完成したら、ポロックの作品を再び鑑賞させる。比較しながら生徒たちのつくり出した作品のよい点やおもしろい点を伝え、達成感をもたせる。授業後には、完成した作品を撮影し、大きく出力して多くの人たちに鑑賞してもらえるように展示する。



どのようなイメージの写真をどの位置に配置するか、他のグループの写真も見比べながら、生徒同士で話し合って構成させる。クラス全員が納得して、「光のジャクソン・ポロック」が完成する。